

令和7年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和8年3月12日

法人名	園名
育生会	こばとこども園

まとめ 全体平均 4.88

第2章第2節
乳児期の園児の保育
一人ひとりの発達や生活リズムに配慮し、安心して過ごせる環境の中で、愛情豊かで応答的な関わりを大切にされた保育を行ってきた。授乳や睡眠、排泄などの基本的生活の場面では、個々の状態に応じた援助を心がけ、心身の安定につなげている。また、感触遊びやうた等を通して、五感を使った遊びを十分に取り入れ、身近な環境への興味や関心が育つよう工夫してきた。今後は、日々の保育の様子をより分かりやすく伝える工夫を行い、保護者と乳児期の育ちを共有していくことを課題としたい。

第2章第3節
満1歳以上満3歳未満の園児の保育
園児一人ひとりの発達段階や気持ちを尊重しながら、「自分でしてみたい」という意欲を大切にされた関わりを行ってきた。活動内容や環境については、戸外・室内を柔軟に選択できるよう工夫し、体を十分に動かしたり、探索活動を楽しんだりできるようにしている。
また、ごっこ遊びや友だちとの関わりが広がるよう、保育教諭が仲立ちとなり、安心して関わり合える経験を積み重ねてきた。今後は、年長児や地域との関わりも意識しながら、さらに人との関係が広がる保育を工夫していきたい。

第2章第4節
満3歳以上の園児の教育及び保育
子どもが自分で考え、選び、決める経験を大切にするため、今年度もサークルタイムを取り入れ、主体性を育む保育に取り組んだ。友だちと話し合ったり、思いを言葉で伝えたりする機会が増え、人間関係や言葉、表現の育ちにつながっている。
一方で、活動内容が固定化しないよう、多様な経験や挑戦につながる提案を行う必要性も見えてきた。今後は、子どもの興味関心を出発点としながら、経験の幅をさらに広げられるよう保育内容の充実を図ってきたい。

第2章第5節
教育及び保育の実践に関わる配慮事項
園児一人ひとりの発達及び発達の状態や健康状態を丁寧に把握し、看護師や栄養士等の専門職と連携しながら、保育教諭の応答的な関わりを基盤とした教育・保育を実践してきた。特に、園児の気持ちを受け止め、個人差を尊重した援助を行うことで、安心して園生活を送ることができるよう配慮している。
途中入園の園児については、ならし保育を行い、保護者との連絡を密にしながら園の生活に無理なくなじんでいけるようにするとともに、在園児に不安や動揺を与えないよう配慮した。また、園児が自ら考え、試行錯誤しながら活動に取り組む姿を大切に

第3章
健康及び安全
園児一人ひとりの健康状態を日常的に把握し、看護師や栄養士などの専門職と連携しながら、安全で安心できる環境づくりに努めてきた。感染症対策やアレルギー対応、事故防止については、全職員で共通理解を図り、適切な対応が行える体制を整えている。
また、災害への備えとして、避難訓練や引き渡し訓練を実施し、保護者との連携を深めることができた。今後は、食育計画と日々の活動とのつながりをより意識し、健康な生活習慣の形成につなげていくことを課題としたい。

第4章
子育ての支援
日々の送迎時や面談等を通して、保護者の気持ちに寄り添いながら、子育ての不安や悩みを共有できる関係づくりを大切にしてきた。園児の育ちを丁寧に伝えることで、家庭と園が連携しながら子育てを進められるよう努めている。
また、地域や関係機関と連携し、地域に開かれた園としての役割を意識した取り組みを行ってきた。今後は、既存事業も充実させつつ、園全体で体制を整え、より多様な家庭の支援につなげていきたい。

第5章
職員の資質向上
日々の保育の振り返りや月ごとの話し合いを通して、職員同士が保育観を共有し、学び合う機会を大切にしてきた。意見を出し合える雰囲気づくりを意識し、園全体で保育の質の向上に取り組んでいる。
今後は、園内研修のさらなる充実と外部研修への積極的な参加を促し、それぞれの学びを園全体に還元できる仕組みづくりを進めていきたい。

総合
一昨年度の全体平均4.40、昨年度4.77に対し、今年度は4.88と、教育・保育の実践全体において着実な向上が見られた。これは、職員一人ひとりが子どもの最善の利益を意識し、日々の保育を振り返りながら改善を重ねてきた成果であると受け止めている。乳児期から満3歳以上の園児まで、発達段階に応じた環境構成や関わりを工夫し、愛情豊かで応答的な保育を基盤として取り組んできた。特に、子どもが自ら考え、選び、行動する経験を大切にされた保育は、主体性や人との関わりや育ちにつながっている。一方で、職員間の連携や保育の可視化、地域と連携した食育の取組など、今後に向けた課題も明らかになった。これらを真摯に受け止め、職員同士が立場や役割を越えて連携しながら、教育・保育の質のさらなる向上を目指していきたい。

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	5.00
「3歳未満児保育」	32	5.00
「3歳以上児保育」	53	4.77
「教育保育の配慮事項」	16	4.95
「健康・安全」	28	4.91
「子育ての支援」	15	4.80
「職員の資質向上」	9	4.78
計	168	4.88

